

地域活性化という「遊び」

51

京都市
福知山市 「みわ・ダッシュ村」から

山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダッシュ村副村長。

限界集落に黒船来航！
と大げさにいいましたが

やってきた黒船というのは
リカちゃん人形。

小学生の女の子だったら

誰でも持っているようなものなので
今更誰も驚かないと思いますが

我が家の場合

一人目の時から

子供に完成品のおもちゃを与える

ということはまずなかったし

有名なキャラクターや

誰もが持っている流行りものは

御法度。

我が家のことをよく知っている知り

合いからは

一体全体どういう風の吹き回し？

明日は大雨か大地震が来るんじゃない？

い？

やっぱ山本家でも女の子には甘いん

ですね！と

たくさんコメントいただきました。

確かに

兄貴たちの時代から比べると

いろいろな点で

審査が甘くなっているという点は

否定できませんが

リカちゃん上陸は

やはり我が家にとって一大事。

まさに黒船来航だったわけですね。

元気は

女の子ということもあって

兄貴たちが小さな頃

盛んにやっていた木工より

編み物や縫い物が好きで

お財布、筆箱、カバンと

生活に必要なものを

気ままに作ってきたのですが

人形の服の作りかたの本を

図書館で見つけて以来

頑固親父を「開国」させた

リカちゃん人形という「黒船」



トマトドレスにニンジンドレス
お弁当に大根とおにぎり持って
お出かけ？

人形が欲しい欲しいと言いつつ
すぐ忘れるだろうと思っていたので
すが

最後には

リカちゃんの家も自分で作る！

とまで言い出し

その月がたまたま誕生日だったとい

うことも幸いして

それほど言うのなら

と頑固親父もとうとうOKを出した



リカちゃんも
キャンプブーム。



買い与えたのは
1体のリカちゃん
でしたが
いろいろな人から
いただいて
一気に激増。

のです。

大喜びの元氣。

最初は本を見ながら
リカちゃんに服や小物を作っていた
のですが

そのうち飽きてきたのか

自分でデザインを工夫して

材料を選び

ニンジンドレスにニンジンバッグ

トマトドレスにトマトバッグ
なんていう

農家の娘ならではの

オリジナルで面白いアイデアも

飛び出しました。

リカちゃんの家はというと

これはちよっと

計算違いがありました

元気がリカちゃん人形を入手！

という情報を聞きつけた知り合いが

誕生日プレゼントと称して

大きな家を

買ってきてしまいました。

家を作るといふ

せつかくのチャンスが失われ

頭を抱える親父の心配をよそに

完成品の家でしばらく遊ぶと

元気はすぐ飽きてしまつて

リカちゃんをキャンプに連れてい
く！と

屋外のデッキを

キャンプ場に見立て

小枝やクルミの殻など使い

とても素敵な焚き火セットを作って
遊んでいました。

その後

SNSでリカちゃんの写真を見た知

り合いから

その人が子供の頃使っていたといふ

すごい数のリカちゃん

友達や家具がどーんと届き

山本家は

あつという間におもちゃだらけ。

さてさてこの先どうなることやら

と心配のため息ついておりましたら

たくさんリカちゃんの手入れをす

るうち

自分からしたことがなかった髪の毛

の手入れを

なぜか自分でするように

なりました。

黒 船来航から一気に開国。 手作りの衣装も

どんどん増えて

電動ミシンもスムーズに使えるよう

になり

開国を渋った頑固親父は

大嫌いだつたりリカちゃんに

どうやらお札を言わなければならな

いようです。